

今、自分にできること

以前は「日本代表」、今は「大好きなサッカーを続けたい」を目標に――。

右大腿骨骨肉腫という大きな病気を乗り越え、

現在選手復帰を目指してトレーニングに

励んでいるプロサッカー選手がいます。

地元埼玉のサッカーJリーグクラブ

「大宮アルディージャ」の塚本泰史選手。

真っ黒に日焼けした大きな体は、

病気であったことを全く感じさせません。

闘病・リハビリを乗り越え、新たな人生を切り開き、

前向きに生きる塚本選手にお話を伺いました。



塚本 泰史
(つかもと・たいし)

サッカーJリーグクラブ「大宮アルディージャ」所属のプロサッカー選手。1985年、埼玉県生まれ。浦和東高校から駒澤大学に進学。大学時代にベストイレブン、大学選手権優勝などに貢献。2008年に同クラブに入団。

「サッカーを始めたきっかけはどんなことだったのですか。」

家族の影響が大きいですね。兄がいて、その兄と一緒に幼稚園の頃から始めたのを記憶しています。ただ当時は小さかったので、あまりサッカーが楽しいという気持ちは無く、兄の背中を追いかけて一緒にサッカーボールを蹴っていました。

「プロの選手になりたいと意識されたのはいつ頃だったのですか。」

高校までは、プロになるなんて思っていなかったんです。その頃はただただサッカーが楽しくて夢中で部活動をやっていました。その後、何人もJリーガーを輩出している、サッカーが強い大学に進学しました。そして、そんな高いレ

悩みました。

でも、やっぱり自分はサッカーが大好きだし、ここであきらめたくなかった。医者からはサッカーは無理だと言われたけど、前例も無かったし、本当に駄目かどうかはやってみないと分からない。だから病気と闘う決意をしました。

「闘病中は、大宮アルディージャのサポーターだけでなく、いろいろな方が塚本さんのために応援されていましたね。」

そうですね。本当に支えてもらいました。家族をはじめ、クラブ（大宮アルディージャ）や選手、サポーターの皆さん、アルディージャに限らず他チームのサポーターの方々など、リハビリ中は全国の方々から励ましと勇気をいただきました。そして、自分も病気をしたこと

で、今までよ

りも周囲に感謝できるようなりましたね。入院中には、川越特別支援学校の生徒をはじめ、たくさんの方から千羽鶴をいただ



きました。本当に嬉しかったです。いつか必ずありますがと伝えにいきたいと思います。

「塚本さんがピッチ（グラウンド）で躍動する姿をお見せするのが一番のメッセージかもしれないですね。」

そうですね。いろいろな悩みましたが、今こうしてサッカーを続けているのも周囲の支えがあるからなので、ぜひ恩返しをしたいです。

「そんな闘病生活中に東日本大震災がありました。サッカー界でも、いろいろな支援活動をされていますね。」

自分は地震当時、家族と一緒にデパートにいましたが、本当に驚きましても心が痛み、被災地の方々の気持ち何だか病気になったときの自分の心境と同じような気がしました。そんな中で今できることはないかと、クラブの街頭募金に参加したり、元気になって欲しいと願いサポーターの皆さんと一緒にビデオレターを届けたりしました。

「私たち埼玉県社協の震災支援の活動にも大宮アルディージャは協力してくれました。大宮アルディージャは、地域貢献という意味でも常にさまざまな取り組みをされていますね。」



▲トレーナーと共にトレーニングに励む塚本選手(右)

とても良いことだと思うし、大切なことだと思っています。

いろいろな人と関わり触れ合うことで、選手はたくさんの方の力や元気をもらえます。子どもたちには夢を与えたいので、自分も一選手として時間のあるときは、こうしたクラブの地域での清掃活動や子どもたちのサッカー教室など一緒にやれればと思っています。

「同じ病気と闘っている方や、塚本さんを応援している子どもたちに何かメッセージをお願いします。」

病気で入院しているとき、同じ病気で入院している高校生がいました。病気なのにいつも笑顔で元気。とても活発なんです。人を気遣う気持ちを持っていて人に弱いところを見せないんです。すごい子だなって。闘病中その子にすごく勇気づけられ

発病しましたが。

初めは本当にショックでした。やっぱり悔しい一言です。

サッカーが大好きで、ずっと続けてきて、夢がなくなってJリーガーになれて、これから代表とかワールドカップ出場とか思い始めていたのに。本当にこれからというときに病気になる、正直不安もあってすごく

ました。頑張ることしか生きること。その子に出会わなければ今の自分は無いと思います。そして、人はひとりでは生きていけないって、支えられて生きているんだって本当に強く思いました。

子どもたちには「夢」や「目標」を持ってほしいと思います。どんな小さなことでも目標があれば頑張れる。自分は、以前は日本代表、今も一度サッカーをしたいという一念でした。

今、自分ができることとして、サッカーを続けている自分の姿を通して皆さんに少しでも勇気を与えることができればうれしいですね。

大宮アルディージャ

埼玉県さいたま市をホームタウンとするサッカーJリーグクラブ。スポーツを通じて夢と感動を分かち合える、より良い地域社会の実現に貢献することをクラブ理念とし、「地域密着」を合言葉にサッカーを通して大人から子どもまで、また地元企業との積極的な交流活動を行っている。

主な地域福祉活動として、児童養護施設の子どもたちへのサッカー教室や、選手自ら購入したチケットでホームゲームへの招待。大宮クリーン大作戦（サポーターと選手による大宮駅周辺の清掃活動）、子ども向けサッカースクール・キャラバン活動の実施などを行っている。また東日本大震災では、被災地での支援活動を継続しているほか、埼玉県内への避難者をホームゲームに無料招待してきた。